



## 改革の手をゆるめるな —自民党パーティー券裏金問題（その3）—

お隣の東京15区(江東区)などで行われた衆議院補欠選挙(4月28日投開票)の結果は、自民党の「3戦全敗」でした。パーティー券裏金問題への有権者の怒りが表れた結果です。

しかし、自民党は「裏金議員」の一部だけ(39名)に対する処分でこの問題は終わりとし、あとは政治資金規正法を少し改正することで、6月23日までの通常国会を乗り切ろうとしています。この問題で自民党の思いどおりの幕引きを許してはいけません。

### 【事実が解明されていない】

そもそも、「パーティー券を利用した裏金が、いつから、誰の指示で作られるようになったのか」「各議員は裏金作りをどの程度知っていたのか」「各議員が裏金を何に使っていたのか」といった具体的な事実関係が、ほとんど明らかになっていません。

安倍派幹部らの政治倫理審査会での弁明も、肝心な事実については「自分とは関係していない」「記憶に無い」など、まともな説明は何もありませんでした。しかも各幹部らの説明には食い違いがあり、「誰かがウソをついている」としか考えられない状況です。

野党はウソをつけば処罰される証人喚問を求めています。自民党は応じておらず、裏金の事実関係を明らかにしようという姿勢が全く見られません。

今回の裏金事件で一体何があったのか、何が問題だったのか、明らかにされていないのに、どんな法改正が必要か判断しようもありません。自民党の中途半端な処分に惑わされて、事実解明の手をゆるめてはなりません。

### 【処分も軽すぎる】

自民党の処分は、安部派の幹部5名(塩谷・世耕・下村・西村・高木各氏)が「離党勧告」か「党員資格停止」、その他の議員は役職や裏金の金額等に応じて「党の役職停止」か「戒告」(500万円以下は処分なし)でしたが、あまりに処分が軽すぎます。

2005年には小泉政権の郵政民営化に反対した自民党議員が、最も重い「除名」や「離党勧告」を受けましたが、法律に違反したわけではありませんでした。それに比べて政治資金規正法違反についてまともな弁明もできない「裏金議員」は、せめて「離党勧告」にしなければ筋が通りません。また裏金が500万円以下の議員は処分なしというのも全く不十分です。

そして、自民党の最高責任者で、刑事事件で起訴された岸田派の会長でもある岸田首相には何の処分もありませんでした。岸田首相は、自分の責任は国民に判断してもらおうと述べましたが、それならば今すぐ衆議院を解散して、総選挙で国民の信を問うべきです。

### 【法律改正もやる気なし】

今回の問題で改めて明らかになったのは、自民党がパーティー券を買ったり献金したりしてくれる企業等の利益を優先する政策を行い、優遇してもらった企業等は献金や選挙応援によって自民党の政権維持を支える、という「利権政治」の構造です。

国民全体の利益よりも献金してくれる企業等の利益を図る自民党の利権政治の結果が、物価が上がっても賃金や年金は上がらず、みんなが将来への不安で安心してお金も使えず結婚したり

子どもを産んだりもできず、経済が停滞し少子化・過疎化、さらには円安が進む現在の日本の姿です。

立憲民主党は、金の力で政治がゆがめられる利権政治から決別するため、①政治資金収支報告書の不正があった場合、会計責任者(秘書など)だけではなく、議員本人も処罰され議員の地位を失う「連座制」の導入、②政治資金パーティーの禁止、③企業団体献金の全面廃止、④使い道が不明の「政策活動費」の廃止などを提案しています。

しかし、自民党が4月23日に公表した法改正案には①～④のどれも盛り込まれていません。特に、自民党案も「連座制」を導入するとしていますが、その内容をよく見ると、議員本人が「会計責任者に内容を確認した」と主張すれば容易に連座を免れることできる仕組みになっている「なんちゃって連座制」であることに注意が必要です。

### 【改革を求める声をゆるめるな】

自民党は与党として国会の過半数を握っているため、強行採決などによって不十分な改正案で押し通すことも、やろうと思えばできてしまいます。それを許さないためには、立憲民主党など野党が頑張るだけではなく、国民からの厳しい批判の声が不可欠です。

さらなる事実解明や徹底した改革を求める野党に対して、自民党はマスコミも利用して「いつまで同じことを言っているんだ」「もっと他にやることがあるだろう」などと言って、もういいだろう、という雰囲気を作ろうとします。しかし、それに乗せられて、国民が改革を求める声をゆるめれば、利権政治は生き残り、日本の衰退は続きます。

今年中と予想されている衆議院の解散総選挙は、政権交代によって自民党の利権政治を完全に終わらせる絶好の機会です。選挙でみなさんが立憲民主党など野党に投票すれば、政権交代は必ず実現できます。政権交代によって、献金できない人も含めた国民全体の利益を図り、みんなが安心して生活できる政治を実現させましょう！

## 後援会員募集中！！

「柴田かつゆき後援会」では会員を大募集中です！  
会費は無料、柴田かつゆきを応援したい、と思ってくださる方でしたら、年齢・住所・国籍等問わずどなたでも入会可能です。

(6/8(土)午後6時より懇親会を開催予定です)。

お申込みは [office.kshibata@gmail.com](mailto:office.kshibata@gmail.com)  
または電話 050-8886-1651 まで！



柴田かつゆき事務所 公認キャラクター  
しばかつくん

## 柴田かつゆき プロフィール

1968年10月生まれ 開成高校・東京大学法学部卒業 弁護士

元：司法研修所教官、第二東京弁護士会副会長、森・濱田松本法律事務所パートナー  
座右の銘：不貪不瞋不痴(みんなのために、明るく、頑張る)、実力も運のうち

## 今月のわんこ

(ふくちゃん&ゆめちゃん)



新川のお掃除で会いました。  
写真を撮らせてくれて、  
ありがとうございました！

## 編集後記 事務所スタッフの独り言

柴田と一緒に『詩吟』教室に通い始めたのは一年ほど前。詩吟ってなんだ！吟じます！なんて言うやつかしら、なんて思うくらい何の知識もなく始めた詩吟ですが、忙しい日々の中で、詩吟教室の時間はエナジーチャージの時間のように感じています。こうやって楽しめるのは、そこで出会った先生や仲間たちのおかげです。私たちはまだまだ新人素人ですが、いつか皆さんの前で、大きな声で、吟ができれば面白いだろうな、なんて考えています。詩吟にご興味のある方は、お声がけくださいね！ スタッフN

SNS発信中です！



## 柴田かつゆき事務所

〒134-0091 東京都江戸川区船堀1-4-10 第2乙女屋マンション604  
電話：050-8886-1651 FAX：050-3488-7290 メール：[office.kshibata@gmail.com](mailto:office.kshibata@gmail.com)